



PACIFIC CARGUY RACING

2021 AUTOBACS SUPER GT Round8 FUJI GT 300km RACE REPORT

カテゴリー	:GT300クラス
エントラント名	:PACIFIC CARGUY Racing
マシン名	:PACIFIC NAC CARGUY Ferrari
カーナンバー	:9
タイヤ	:ヨコハマタイヤ
ドライバー	:木村武史、ケイ・コッツォリーノ
レースクイーン	:Pacific Fairies
開催日	:2021年11月27日-28日
会場	:富士スピードウェイ(一周4.563km)
天候	:27日 ☀(Dry) 28日 ☀(Dry)
気温	:27日 9℃ 28日 13℃
路面温度	:27日 15℃ 28日 23℃
参戦車両数	:GT500/15台 GT300/28台 合計43台
Best Lap	:1:35.602
Q1 Bグループ	:7位
Q2	:14位
決勝	:13位

PACIFIC NAC CARGUY Ferrari

熾烈を極めた最終戦。
チームの全力を尽くし、有終の美を飾る。

事前情報

今シーズン2回目となる富士スピードウェイ。最終戦となるRd.8はサクセスウェイトが無くなり、ハンデなしの熾烈を極める戦いとなった。気温は10℃を下回り、風は冷たく肌寒い。天気は予選日から快晴となり、白化粧の美しい富士山がレースの行く末を見守っていた。最終戦ともあって多くの観客が詰め寄せ、サーキットを賑わせた。富士スピードウェイの特徴としてあげられるのは、全長1,475mのロングストレート。馬力の違ったマシンが混走するSUPER GTならではの、エキサイティングなバトルが繰り広げられる。

ドライバーは木村選手とケイ選手。前回のもてぎ戦では渾身のオーバーテイクショーを見せ、観客を沸かせた PACIFIC CARGUY Racing。今回も快進撃を見せるのか、ファンの期待が高まった。

公式予選: Q1 Bグループ



2021.11.27

14:48-14:58

ドライバー :ケイ・コッツォリーノ

気温 :9℃

路面温度 :15℃

順位 :7位

Best Lap :1:35.602

Lap数 :6Lap

走行距離 :27.378km

■冷えたコンディションの中、7番手でQ1突破を果たす。

気温 9℃/路面温度 15℃と肌寒さが際立つコンディション。気温が低いことによりタイヤが温まり難く、好スコアは出しにくい。クリアラップの見極めとタイヤのマネジメントがQ1突破の鍵となる。Q1を担当するのはケイ選手。1周目は3分かけて入念にタイヤを温め、2周目から徐々にタイムを縮めながらコースの状況を探っていく。そして5周目のアタックで1:35.657、8番手につける。更にラストでタイムを更新し、1:35.602をマーク。順位を1つ上げ7番手でフィニッシュ。見事Q1突破を果たした。

公式予選:Q2



2021.11.27

15:23-15:33

ドライバー :木村武史

気温 :10℃

路面温度 :13℃

順位 :14位

Best Lap :1:37.349

Lap数 :6Lap

走行距離 :27.378km

■連続でタイムを更新し、自己ベストを記録。14番手でフィニッシュ。

Q1に比べて路面温度が低下。Q2はQ1を突破した16台で行われる。Q2ドライバーは木村選手が担当。1周目はQ1と同じく3分かけてタイヤを入念に温めていく。4周目から勝負を仕掛け、1:37.704をマーク。5周目では0.349秒縮め、6周目のアタックで自己ベストを更新し、1:37.349を記録。14番手でフィニッシュとなった。

2021.11.28

13:06-14:54

第1スティント :ケイ・コッツォリーノ

第2スティント :木村武史

気温 :13℃

路面温度 :23℃

順位 :13位

Best Lap :1:37.511

Lap数 :61Lap

走行距離 :278.343km

決勝



14番グリッドからの出走となった決勝。スタートドライバーはケイ選手。開始早々順位を3つ上げ11番手、6周目では8番手に。怒涛の追い抜きを見せ勢い付いた最中、他号車のアクシデントが発生。SCが導入され、13周目でリスタート。ギャップはリセットされたが、ケイ選手はペースを乱さず、21周目には6番手にまで順位を上げる。レース中盤、ピットインするマシンが増えていく中、9号車はステイアウト。ドライバー交代までタイムを稼ぐ。レースの2/3を迎える43周目のタイミングでピットインし、木村選手へ交代。泣いても笑っても最終戦。チーム全員が固唾を飲んで見守る中、バトンを託された木村選手は他号車からの猛追を寄せ付けず順位を守り続け、ファイナルラップまで9番手を維持。だがADVANコーナー手前で後方イン側から他号車が迫り、ヘアピンへのラインが膨らんでしまう。そこを他号車に刺され順位を落とし、13位でフィニッシュとなった。レース終了後に判明した事だが、実は激しいバトルの末、車体に損傷を受けていた。普段のポテンシャルではなかったが、PACIFIC CARGUY Racingは最大限のパフォーマンスを発揮し、上位チームと渡り合う程の結果を残した。

COMMENT



総監督 神野元樹

「マシンのセッティングとそれを活かした両選手の走りにより最大限のパフォーマンスを発揮できました。木村選手の奮戦ぶりに最後は感涙し、ケイ選手のドライビングには興奮を覚えました。両選手の活躍でAシード獲得を果たし、本当に良いチームに仕上がったと感じております。今ここでレースが終わってしまう事が残念でなりません。一年間本当に有難う御座いました。」



木村武史

「まずは総監督の神野会長を始め、上野監督、そしてスタッフの包容力と献身的な活動には感謝と敬意を申し上げます。本当に楽しく、笑顔溢れるシーズンでした。シリーズ戦績もケイ選手、横溝選手の力も借りてシリーズランキング16位を獲得。また、私も念願のポイントを取得し、ドライバーランキング27位を獲得できました。スーパーGTのリザルトとしては胸を張れる戦績を残せました。チーム全員に心から感謝です。本当にお疲れ様でした。」



ケイ・コッツォリーノ

「前回に続いてマシンのセットとタイヤのチョイスが完璧にマッチングし、大きく順位をあげることができました。ここまでセッティングしてくれたチームの皆さまには本当に感謝です。今回のレースでもそうですが、シーズンを通して貴重なデータを取得する事ができました。また来年チャンスがあれば是非リベンジしたいと思います。一年間応援ありがとうございました。」

PARTNERS






SPONSORS


























